

## 抗加齢医学からみた漢方薬

鹿児島大学漢方薬理学講座・特任教授

乾 明夫 (イヌイ アキオ)

座長：長瀬 眞彦 吉祥寺中医クリニック・院長  
日本プラセンタ医学会・名誉理事、日本東方医学会・  
会長、順天堂大学医学部 医学教育研究室・非常勤助教

### 略歴

1978年3月 神戸大学医学部卒業  
1984年7月 神戸大学医学部助手  
1997年12月 神戸大学医学部附属病院講師  
2000年1月 神戸大学医学部助教授  
2005年1月 鹿児島大学大学院心身内科学分野教授  
2012年7月 鹿児島大学病院漢方診療センター長  
2018年4月 鹿児島大学大学院漢方薬理学講座特任教授  
現在に至る



### 専門・指導医

内科学会指導医・認定医、心療内科学会専門医、消化器病学会指導医・専門医、  
内分泌学会指導医・専門医、老年医学会指導医・専門医、肥満学会専門医、自律訓練法専門指導

### 受賞歴

1997年 第3回日本肥満学会賞  
2003年 第1回日本心身医学会池見賞  
2004年 第10回米国消化器病学会ヤンセン賞  
2014年 第15回日本行動医学会荒木記念賞（共同受賞）  
2015年 第17回日本行動医学会内山記念賞（共同受賞）  
2017年 蟹江松雄賞功労賞(焼酎機能性の解明と啓蒙)

フレイルはサルコペニア（骨格筋萎縮）を骨子とした心身のシンドロームであり、漢方で言う未病病態に近い。フレイルを予防・治療することによる健康寿命の延長が、世界的にも愁眉の課題となっている。多成分系の漢方薬は、食欲不振・サルコペニア・不安・抑うつ・認知など、加齢や疾患に伴うフレイルの治療に威力を発揮するものと期待される。

漢方医学では、サルコペニアは脾虚として捉えられ、人参養栄湯をはじめ補剤の良い適応となってきた。老化はまた腎虚として解され、補腎剤や補剤・補腎剤の併用投与が行われてきた。プラセンタは紫河車として知られ、温腎補精、益気養血、安心などの効用が謳われ、併せ用いられてきた。

フレイルに代表される社会の高齢化は、ポリファーマシー、医療経済の破綻といった負の側面のみならず、老化機序の解明や抗老化薬（Geroprotector）の開発など、大きな学問的進歩をもたらしつつある。本講演ではこの進歩に触れながら、人参養栄湯、プラセンタ（紫河車）など補剤・補腎剤の抗サルコペニア・フレイル作用を、がん・老化モデルマウスやゼブラフィッシュを用いた我々の研究成果を含めて述べる。